



# 株式会社エルギア・コミュニケーションズ

## 1. 活用推進者

情報システム本部 人財育成運用事務局

◆情報計画部 時任部長、伊藤サブマネージャー

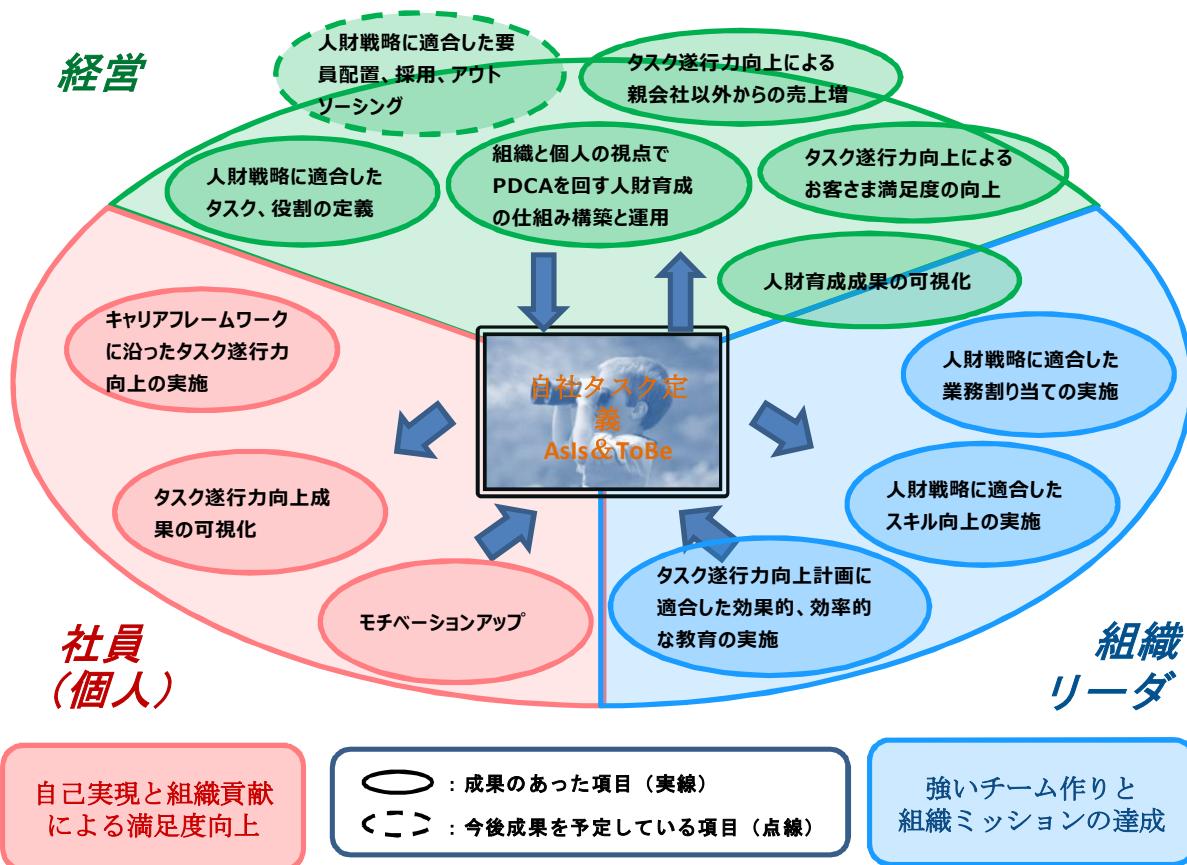
◆開発センター 原田所長、廣川マネージャー、森田サブマネージャー、住田担当、内田専任課長

## 2. 会社概要

- 社名 : 株式会社エルギア・コミュニケーションズ(略称:エネコム)
- 所在地 : 広島県広島市中区大手町二丁目11番10号
- 設立 : 1985年4月1日
- 代表者 : 取締役社長 熊谷 錠
- 資本金 : 60億円
- 社員数 : 984名(2018年3月31日現在)

## 3. iCD取組み効果

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築



#### 4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1. 効果のあった項目	効果内容
タスク遂行力向上による親会社以外からの売上増	事業・人財戦略の目標達成に向けたタスク遂行能力の向上に注力し、親会社以外からの売上高増加に貢献した(直接的な効果算定は困難ながら、iCDの全面運用を開始した2016年度以降、情報システム本部全体の売上高は増加基調)。
タスク遂行力向上によるお客さま満足度の向上	社員一人ひとりのタスク遂行力向上により、お客さまからの信用信頼を高めることができた(2016年度以降のお客さま満足度は毎年目標値を上回る実績を継続)。
人財戦略に適合したタスク、役割の定義	人財戦略をもとに、情報システム本部において強化すべき重点的役割とタスクを組織と個人が認識を統一して定義し、育成を推進できるようになった。
組織と個人の視点でPDCAを回す人財育成の仕組み構築と運用	組織力強化と個人のタスク遂行力向上の視点から、両者が納得して人財育成のPDCAを回す仕組みを構築し、運用できるようになった。
人財育成成果の可視化	iCD管理ツールの活用により、ライン管理職が人財育成施策による組織としての成果(情報システム本部全体・各部署)を数値で把握できるようになった。
人財戦略に適合した業務割り当ての実施	組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスク遂行力を向上させるための業務を優先的に割り当てができるようになった。
人財戦略に適合したスキル向上の実施	組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスクに関連するスキルを向上させるための施策(OJT、教育、自己啓発)を的確に実施できるようになった。
タスク遂行力向上計画に適合した効果的、効率的な教育の実施	タスク遂行力の向上に関連するお勧めの教育コースをツール上に複数表示し、選択できるようにしたことで、効果的かつ効率的な教育を実施できるようになった。
キャリアフレームワークに沿ったタスク遂行力向上の実施	目指すべき方向性を数値も含めて明確にしたキャリアフレームワークに沿って、当年度のタスク遂行力向上施策を策定し、実施できるようになった。
タスク遂行力向上成果の可視化	iCD管理ツールの活用により、個々の社員がタスク遂行力向上施策による成果(現状・過去比較)を数値で把握できるようになった。
モチベーションアップ	将来のキャリアパスを描くことができ、また組織から求められるタスクも明確になることで、自己の能力向上に対するモチベーションアップを図ることができた。

4.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
人財戦略に適合した要員配置、採用、アウトソーシング	人財戦略に基づく人財ポートフォリオ構築に向けた要員配置、社員採用、アウトソーシングを実現する。

## 5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

- 中長期経営ビジョンの高い目標(親会社以外からの売上増など)達成に向け、社内要員が持つタスク遂行力と不足するタスク遂行力が明確化され、目標達成への道筋がより明らかになった。
- 情報システム本部の人財戦力分布が可視化され、人財育成上の強化すべき領域が明確になった。
- 新規事業やプロジェクト発足時の要員配置・異動において、メンバーが果たすべきタスク要件を明示できるため、最適な選抜がしやすくなった。
- 担当者が自らのタスク遂行力をアピールでき、職場の活性化につながった。



現場リーダー

- 情報システム本部の人財戦力の現状に沿って、自組織の人財育成計画を的確に立てられるようになった。
- 個人ごとに強化すべきポイントが明確になり、部下に対する育成指導がしやすくなった。



社員

- キャリアパスや役割が明確に示され、自分の進むべき道を描きやすくなった。
- 自分の能力向上に必要なタスクやスキルが明確になり、目標設定や計画策定がしやすくなった。
- 自分の成長の軌跡が見えるようになり、モチベーションが向上した。

## 6. iCD取組みの効果(1／5)

## ■効果項目:人財戦略に適合したタスク、役割の定義

人財戦略をもとに、情報システム本部において強化すべき重点的役割とタスクを組織と個人が認識を統一して定義し、育成を推進できるようになった。

【經緯】

これまででは将来必要となるタスクや役割が曖昧で、組織全体で認識が統一されていなかった。

## 【具体的な施策・効果】

- ・「要求分析」のプロセスで事業戦略を明文化し、これに基づき人財戦略を策定した。
  - ・明確な事業・人財戦略に基づき、情報システム本部で強化すべき重点的役割を定義できた。
  - ・経営層とライン管理職の間で人財育成に対する認識の統一化が図れた。

## ■効果項目:組織と個人の視点でPDCAを回す人財育成の仕組み構築と運用

組織力強化と個人のタスク遂行力向上の視点から、両者が納得して人財育成のPDCAを回す仕組みを構築し、運用できるようになった。

【經緯】

情報システム本部として、従来から「社員育成の進め方」を定めていたが、具体的な運用手順が整備されておらず、効果的に機能しているとは言い難い状態であった。

#### 【具体的な施策・効果】

- ・ライン管理者向けの「人財育成運用ガイドライン」を定めた。組織の人財育成に関する計画策定から育成実施、結果の評価、計画の見直しに至る作業の手順やポイントなどを明記したことで、統一基準に基づく継続的な運用が可能になった。
  - ・一般社員向けの「人財育成運用ガイドライン」を定めた。社員自身の育成計画策定から具体的な取り組み、タスク自己評価、達成状況の確認に至る作業の手順やポイントなどを明記したことで、統一基準に基づく継続的な運用が可能になった。

#### 【関連資料】 ◆人財育成運用の年間スケジュール



## 6. iCD取組みの効果(2／5)

#### ■効果項目:人財育成成果の可視化

iCD管理ツールの活用により、ライン管理職が人財育成施策による組織としての成果(情報システム本部全体・各部署)を数値で把握できるようになった。

【經緯】

人財育成の成果を客観的に評価するための基準が定まっていない状態であった。

## 【具体的な施策・効果】

- ・iCD管理ツールを活用した。
  - ・役割ごとのタスク遂行力やタスクごとのランクを組織別に把握できるほか、過去分と比較した成果を数値で確認できるようになった。

## 【関連資料】

## ■効果項目:人財戦略に適合した業務割り当ての実施

組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスク遂行力を向上させるための業務を優先的に割り当てることができるようになった。

## 【具体的な施策・効果】

- ・役割ごとにタスク遂行力を向上させるための詳細タスクを定義した。
  - ・必要なレベルに到達させるためには、どのようなタスクを与えればいいのか容易に把握できるようになった。
  - ・人財戦略に沿って育成を進める際、育成に必要なタスクを把握し、そのタスクを実行できる業務を優先的に割り当てることができるようになった。

## 【関連資料】

## 6. iCD取組みの効果(3/5)

### ■効果項目:人財戦略に適合したスキル向上の実施

組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスクに関連するスキルを向上させるための施策(OJT、教育、自己啓発)を的確に実施できるようになった。

#### 【具体的な施策・効果】

- ・人財戦略に沿って育成を進める上で必要なタスクを特定し、そのタスクに関連するスキルを洗い出した(現在は手作業)。
- ・本当に必要なOJT、教育や自己啓発を効果的に実施できるようになった。

### ■効果項目:タスク遂行力向上計画に適合した効果的、効率的な教育の実施

タスク遂行力の向上に関連するお勧めの教育コースをツール上に表示し、選択できるようにしたことで、効果的かつ効率的な教育を実施できるようになった。

#### 【具体的な施策・効果】

- ・iCD管理ツール上に、各タスクでのスキルアップに必要な研修コース候補を一覧表示するようにした。
- ・担当者は上長と相談のうえ、候補一覧の中から来年度受講を希望するコースを選択する。両者が納得して決定することで、より効果的な教育が実施できるようになった。
- ・研修コース開設までの事務処理も効率化できた。

#### 【関連資料】

- ・管理ツールの利用例

プログラマー Lv2									
タスク		Level1 (タスク遂行力1)	Level2 (タスク遂行力2)	Level3 (タスク遂行力3)	Level4 (タスク遂行力4)	Level5 (タスク遂行力5)	Level6 (タスク遂行力6)	操作	
プログラム 作成	プログラム作成	*	2018年 ✓ *					情報あり	
	全条件必須	単体テスト計画の作成および単体テスト計画レビュー	*	2019年 ✓ *				情報あり	
		単体テストの実施および結合テストの準備	*	2019年 ✓ *				情報あり	

研修コース情報

スキルアップに必要な研修コースの候補が表示される

目標レベル設定 研修コース情報一覧									
・それぞれのタスクに関連する研修コースの一覧です									
研修事業者ID	研修事業社名	研修ID	研修コース群	研修コース名	研修形態	レベル	日数	リンク	研修受講可能期間
FLM	株式会社富士通 ラーニングメディア	IJS35L	Webコンテンツ開発技術	Web技術者のためのHTML5 APIプログラミング	集合研修	タスク遂行力2～4	2日間	リンク先へ	2000/04/01
FLM	株式会社富士通 ラーニングメディア	IJS36L	Webコンテンツ開発技術	JavaScriptプログラミング基礎	集合研修	タスク遂行力0～1	2日間	リンク先へ	2000/04/01
FLM	株式会社富士通 ラーニングメディア	IJS40L	Webコンテンツ開発技術	JQueryによるWebアプリケーション開発	集合研修	タスク遂行力2～4	2日間	リンク先へ	2000/04/01
FLM	株式会社富士通 ラーニングメディア	IJS47L	Webコンテンツ開発技術	Web技術者のためのREST API構築～JSによるサーバサイド実装～	集合研修	タスク遂行力2～4	1日間	リンク先へ	2000/04/01

## 6. iCD取組みの効果(4／5)

### ■効果項目:キャリアフレームワークに沿ったタスク遂行力向上の実施

目標すべき方向性を数値も含めて明確にしたキャリアフレームワークに沿って、当年度のタスク遂行力向上施策を策定し、実施できるようになった。

## 【經緯】

- ・個人別の育成計画を策定する際、現在能力として何が不足しており、将来の役割としてどのような方向へ向かえばいいのかを判断するよりどころがないため、具体性に欠けるものになりがちであった。

## 【具体的な施策・効果】

- ・役割とタスク遂行力のマトリクスをキャリアフレームワークとして定めた。これに基づき社員は自らの「キャリアアップシート」を作成する。
  - ・目指すべき方向性が明確になり、具体的なタスク遂行力向上施策を策定し、実施することができるようになった。

## 【関連資料】

- #### ・キャリアアップシート

## 6. iCD取組みの効果(5/5)

### ■効果項目:タスク遂行力向上成果の可視化

iCD管理ツールの活用により、個々の社員がタスク遂行力向上施策による成果(現状・過去比較)を数値で把握できるようになった。

#### 【具体的な施策・効果】

- ・iCD管理ツールを活用した。
- ・個人ごとのタスク遂行力やタスク習得状況、過去分との比較による成果を数値で把握できるようになった。

#### 【関連資料】

役割	専門分野	タスク遂行力					
		Level1	Level2	Level3	Level4	Level5	Level6
セールスエンジニア	-					<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
ITアーキテクト	-					<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
プロジェクトマネージャー	-					<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
上級アプリケーションエンジニア	-			<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		
アプリケーションエンジニア	-		<input type="checkbox"/> %		<input checked="" type="checkbox"/> %		
プログラマー	-	<input type="checkbox"/> %		<input checked="" type="checkbox"/> %			
ITサービスエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %			
上級インフラエンジニア	-						
インフラエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %			
データサイエンティスト	-						
データアナリスト	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %			
組込みシステムエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %			
研究開発エンジニア	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %			
ビジネスプランナー	-				<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
ビジネスソポーター	-	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
プロダクトセールス	-			<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %	

Web ページからのメッセージ

プログラマー(-)の  
Level2のタスクは  
88%達成しています

OK

### ■効果項目:モチベーションアップ

将来のキャリアパスを描くことができ、また求められるタスクも明確になることで、自己の能力向上に対するモチベーションアップを図ることができた。

#### 【具体的な施策・効果】

- ・目指すべき役割やタスクを明確にした将来のキャリアパスを描けるようにした。
- ・自分の伸ばすべきタスクが明確になり、その成果が数値で客観的に評価されるため、社員一人ひとりの能力向上に対するモチベーションがアップした。